

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Conditionals in mandarin Chinese

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2004-09-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 下地, 早智子, Shimoji, Sachiko メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/733

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



中国語の条件表現¹

下 地 早智子

0. はじめに

本稿は、中国語の条件表現に見られる固有の特徴、及び他言語と共有される特徴をそれぞれ明らかにし、最終的には条件表現とは何かという問題について中国語文法の立場から検討するための手がかりを得ることを目的とする。

第1章では、中国語の複文、なかでも因果複文と仮定・条件複文²について先行研究で明らかにされていることを整理する。

第2章では、中国語の仮定・条件複文に関して具体的に二つの問題を検討する。

2. 1節では、仮定・条件節におけるアスペクト助詞“了”の分布と意味を考察する。アスペクト助詞“了”は一般に完了体を表すといわれるが、従属節における“了”的用法が、英語の時制後退や日本語の「れば」に対する「たら」の用法と共通するものがあるのか否かを検討したい。

2. 2節では、仮定・条件複文の主節に頻繁に用いられる副詞“就”的意味と役割について検討する。

第2章で扱われる二つの問題は一見無関係なものに思われるが、実はいずれの問題も、時制のない言語がどのように仮定・条件節を構成しているかという点で、根底において問題点を共有するものである。この隠れたテーマが

1 本稿は、2004年7月24日に大学共同利用施設「ユニティ」で行われた「言語対照ワークショップ2004—条件表現をめぐって—」における口頭発表に基づくものである。益岡隆志先生、奈良夕里枝先生、和佐敦子先生、有田節子先生、そして貴重なコメントを下さった定延利之先生と参会者の皆様に心からお礼を申し上げます。

2 後述するように、中国語では日本語の条件表現に対応する形式が、主に「条件複文」と「仮定複文」の二種類に分かれている。

本稿によって完全に解決されるわけではないが、他言語と対照する上で中国語の最も注目すべき特徴であると思われるので、最終的にはその探求を目指した二つの問題点であるということを付け加えておきたい。

1. 中国語の複文

1.1 複文の形式

中国語の複文の接続関係は、主に、①関連詞と呼ばれる接続詞や副詞（例(1)）、②代詞や同一形式の呼応（例(2)）、によって表される。しかしながら、特に話し言葉では③接続関係を表す要素を全く持たない複文が多く存在する（例(3)-(5)）。

① 関連詞

- (1) 你要是不珍惜这种纯洁的友谊，我就跟别人作搭当了啊。《编辑部》
(あなたがこの純粋な友情を大切にしないのなら、私は別の人と仕事をしますからね。)

② 同一形式の呼応

- (2) 吃一堑，长一智。³
(一つ転ぶ、一つ知恵が育つ→一つしくじればそれだけ賢くなる)

③ 接続関係を表す要素を持たない場合

- (3) 他不在家，他的东西我们不要随便乱动。（因果）
(彼が家にいないので、彼のものを勝手に触ってはいけない。)
- (4) 站住，别送我！你送，我跟你急！（仮定）
《贫嘴》
(ついてきたら怒るわよ！)
- (5) 坐在后边儿，我看不清楚。（因果/（仮定））
(後ろに座っているのではっきり見えない/（後ろに座るとはっきり見えない）)

3 出典が示されていない例文は、教科書、参考書類からの引用か、筆者による作例である。作例したものは全て複数の北方出身のネイティブスピーカーによるチェックを経ている。

(5)には因果関係の解釈も、仮定関係の解釈もあり得る。このような複文は文脈情報がなければ接続関係の正確な解釈は不可能である。

1. 2 関連詞を持たない複文の解釈について（大河内1967, 相原1982）

1. 1における③のように、接続関係を表す要素を持たない複文がどのように解釈されるかについて考察した先行研究に、大河内1967がある。大河内1967では、複文の意味解釈の手がかりとなる形式的な区別が、主に二つ指摘されている。一つは、前件における主語の有無で、(6)のように主語の有無によって、複文の解釈が変わることである。⁴

(6) a. 她多读书、多懂道理。

(彼女は本を多く読むので、より道理を理解している)

b. 多读书、多懂道理。

(本を多く読めば、より道理を理解する)⁵

もう一つは、前件における時間副詞や助動詞、指示代詞のはたらきである。

表1

	代 詞	副詞・助動詞
因果/転折	这么, 这个, 那个, 那样 (こんな, この, その, そのような)	已经, 起初, 现在 (すでに, はじめは, いま)
仮定/譲歩	多少, 什么, 怎么 (どれほど, 何, どんなに)	要, 该, 敢 (しそうだ, すべきだ, 敢えて)

表1に示したように、因果/転折を表す複文の前件には「定」(definite) の代詞や已然を表す時間副詞、そして、仮定/譲歩を表す複文の前件には「不定」(indefinite) の代詞や未然を表す助動詞類が用いられるということである。

(7) a. 咱们有这么个好班长、保持四好班是有希望的。(因果)

(僕らにはこんなに良い班長がいるんだから、「四好班」(四拍子

4 非動作主的な主語についても同様のことが言えるか否かについての検討が必要である。

5 ここでの記述はとりあえず大河内1967に従うが、(6b)はそのままでは並列複文にしかならず（「たくさん勉強し、多くの道理を解するようになりなさい」）、仮定文にするには“多读书、就多懂道理。”のように“就”を加えなければならないとするネイティブスピーカーの方も複数いらっしゃった。

そろった良い班) の称号をキープする望みは十分さ。)

b. 有好班长、保持四好班是有希望的。(仮定)

(良い班長がいれば、「四好班」の称号をキープする望みがある。)

(大河内1967)

大河内1967ではさらに、因果節に用いられる定の代詞や已然を表す副詞などを「已然(確定)表現」、仮定・条件節の代詞や助動詞を「未然(不確定)表現」と呼んでいる。

ここで(5)の解釈についてもう一度考えてみると、前件の“坐在后边儿”(後に座る)という命題が現実に存在する状況であれば(5)は因果複文、現実に存在する状況でない場合は仮定複文の解釈になるものと考えられる。そこで、(5)のような場合を含めて、接続関係を表す要素を持たない複文の解釈について、(8)のようにまとめておきたい。

(8) 関連詞のない複文では、その従属節が非現実の出来事を表していると了解されれば仮定・条件複文の解釈となる。その方法は、①文脈情報による場合(5)と、②その命題が「現実」のものであることを示す形式をはずす場合(6)(7)、③その命題が「非現実」のものであることを示す形式を付加する場合がある。^{6 7}

1.4 中国語の複文の体系

表2は、中国語の因果複文と仮定・条件複文の呼応形式をまとめたものである。⁸

6 ここでいう「現実/非現実」と、赤塚1998における「事実 realis/非事実 irrealis」の認知スケールとの関係は今後の検討課題としたい。

7 已然(確定)表現を含む節に仮定関係を表す関連詞をつけると、反事実条件の解釈の可能性が生じるようである。(例文は相原1982より引用)

i) 如果没有兴修水利，遇到这样的旱天就会成灾了。

(もし治水工事をしていなかったら、こんな日照りにあって被害なしにはすまなかつただろう。)

ii) 不兴修水利，一遇旱天就会灾。

(治水工事をしなければ、日照りになったら災害になる。)

8 刘月华2001、第五編、第二章の表より関連箇所のみ一部修正を加えて引用。

表2

		従属節	主節
因果複文	説明因果複文	①関連詞を用いない ②(因为……) ③由于……, ④……,	所以……。 所以……。 因而……。
	推断因果複文 (…であるからには/限り、…だ)	①……, ②(因为……) ③(既然……) ④……,	因此……。 以至于……。 (那)就……。 可见……。
仮定・条件複文	特定条件複文 (…でありさえすれば、…だ/) …であるときに限り、…だ)	①(只要……) ②(只有……) ③除非……	就……。 才……。 才……。
	無条件複文 (…にかかわらず、…だ)	①无(不)论…… ②不管……	也/都……。 也/都……。
	仮定複文	①関連詞を用いない ②如果…… ③要是/若是……, ④倘若/假若……, ……,	就……。 就……。 就……。 就……。

この表から次の三点を中国語の特徴として挙げることができる。

まず、今まで述べてきたように、関連詞を用いず、接続関係の解釈を完全に文脈情報だけに委ねることがある。

第二点は、因果複文が「説明因果複文」と「推断因果複文」に形式分化していることである。「説明因果複文」とは、一般に言われる因果複文と同じものであるが、「推断因果複文」は前件が現実の事態を表し、後件はその前件に基づく話し手の推論を表すものである。「推断因果複文」は日本語に対応する専用の形式がないことから、教学上扱いの難しい因果文である。日本語の「ナラ」の対訳にこの形式が現れることがある。

第三点は、「条件複文」と「仮定複文」と呼ばれる複文が形式的にも意味的にも区別されることである。「条件複文」とは「pでさえあればq」という十分条件、「pである場合に限ってq」という必要条件、「pであってもそうでなくてもq」という無条件の三種類の論理関係を表す複文であり、「仮定複文」とは一般的に「pならばq」という条件関係を表す複文である。邢

福义2001によれば、「仮定複文」も十分条件を表すので、(9)のように十分条件を表す「条件複文」と「仮定複文」の関連詞は、互換可能になることが多いという。

(9) 如果／只要 乘飞机，两小时内就可以从北京到武汉。⁹

(飛行機に乗れば/乗りさえすれば、二時間以内に北京から武漢まで着ける。)

しかし、(10)のように話し手の純粋な仮想を表す場合は「仮定複文」の関連詞しか用いることができず、(11)のように現実の状況を条件とする場合は、「条件複文」の形式を用いることしかできないということである。

(10) 如果／*只要 美国人民问到共产党为什么作战，我该怎么回答？

「もしアメリカ国民が共産党はなぜ戦争をするのかと聞いてきたら、私はどのように答えるべきだろうか」

(11) 谁不知道您是教授？*如果／只要 您是教授，您就可以坐软座！

「あなたが教授であることを知らない者はいません。あなたが教授でありさえすれば、一等席に乗っていいんですよ！」

2. 中国語の仮定複文と条件複文 一テンスのない言語における仮定・条件節の構成

2. 1 仮定・条件節における“了”の分布と意味

表3は、演劇の台本や口語表現の豊富な小説、そしてテレビドラマなどから

表3

		如 果	要 是	要	関連詞なし	計
－了	16	60	35	106	217	
+了	V 了0	2	4	26	3	35
	V 0 了	0	0	2	1	3
	V (R) 了	1	4	3	1	9
計	19	69	66	110	264	

9 例文 ((9)-(11)) は邢福义2001, p.106より引用。

ら収集した中国語の仮定・条件文の前件における“了”的分布をまとめたものである。

前件の関連詞は，“如果”と“要是”と“要”，そして「関連詞なし」の4種類であった。計264例のうち“了”的用いられていない例が217例であったのに対し，“了”的用いられている例はわずかに47例であった。そして，“了”的用いられている例でも，“V了0”的形式に対し，“V0了”的形式は非常に少なく，わずかに3例だけであった。¹⁰ 表3の数値から，関連詞の“要”と“V了0”的形式には明らかに相関関係があるよう見えるが，この現象の解釈は今後の課題としたい。

2. 1. 1 “了”的ある場合とない場合

まず指摘しておかなければならぬことは，(12)(13)に見られるように，仮定・条件節が動作，行為を表すものであっても，“了”は用いられない例の方が圧倒的に多いということである。

(12) 我正告你，如果你动我一个手指头，我就和你拼了。 《玩主》

(もし指一本でも俺に触れてみろ，徹底的にやりあってやる。)

(13) 她要回来你告诉她，让她给我打个电话，嗯，她知道我在哪儿

《贫嘴》

(彼女が帰ってきたら，俺に電話するよう伝えてくれ。)

では，どのような場合に“了”が用いられるのかについて，類似した意味の仮定・条件複文において“了”的用いられる例と用いられない例を観察してみたい。

(14)の下線部の前件では“了”が用いられている。これに対して，非常に似た意味の(15)の下線部では“了”が用いられていない。

(14) 焦花氏：(一面说，一面四处寻觅东西，找到绣成一半的孩子的鞋，

10 “V了”または“VR了”的形式については，“V了0”と用法上の違いが見られなかったので，ここでは詳しく扱わないことにする。

摆好大半的锡箔笸箩，摆好了经卷，放正了椅子，都做好，以手数点东西，一面念）小黑子的鞋，——锡箔，笸箩，——往神钱，——椅子摆正，……（没有弄错，向仇虎）怎么样？

仇 虎：（赞美她，举起拇指）第一！我当了皇上，你就是军师。

《原野》

（焦花氏（言いながらあたりを見回し，半分ほど仕上がった子供の靴と大方編みあがったザル，経典を並べ，椅子を正し，指差し確認しながらつぶやく）ヘイズちゃんの靴にザル，椅子は直した（間違いないと確認してからチョウフに向かって）どう？

チョウフ（彼女を賞賛し，親指を立てて）「最高だ！俺が皇帝になつたら，お前は軍師だな。」

(15) 常 五：（忽然一个喷嚏，几乎把水弄洒，杯子放在桌上，自己笑嘻嘻地）啊，百岁！阿（又一个喷嚏）啊，千岁！（又一个）啊，万岁！你看，这三个喷嚏叫我在这儿当了皇上。

焦花氏：（变了脸色，镇静一下，也笑嘻嘻地）你当皇上，我做您军师。

《原野》

（チャンウ（突然くしゃみをしてあやうく水をこぼしそうになり，湯呑み茶碗をテーブルに置いて）あ，百歳！あ（またくしゃみ）あ，千歳！（またくしゃみ）あ，万歳！¹¹ おやおや，三度のくしゃみで皇帝になつちまつたわい。

焦花氏（顔色を変えて，少し気を落ち着けて，笑いながら）貴方が皇帝なら，私はあなたの軍師になりますわ。)

(16)は下線部の「昼になつたら」の部分には“了”が用いられているが，後半の「夜になれば」の部分には“了”が用いられていない。(17)(18)の下線部の対立も同様である。

11 中国では「万歳！」は皇帝或いは国家に対してのみ用いる。

(16) 男的睡外边，女的睡里边，到了白天呢，咱就把这块布帘拉开，把桌子椅子都打开放在这儿，该吃饭的吃饭，该写作业的写作业。高兴了还可以打扑克牌。到晚上呢，咱再把这布帘给拉上…… 《贫嘴》

(男は外側，女は内側，昼になつたらカーテンを開けてテーブルと椅子をここに広げる，飯を食いたい奴は食う，宿題をやる奴は宿題をやる。気が乗つたらトランプもできる。夜になればまたカーテンを引く。)

(17) 有了消息我就给你打电话。 《贫嘴》

(情報が入つたらすぐにお電話さしあげます。)

(18) 回家喝酒去，别坐这儿碍事，有消息我们就给你打电话。 《贫嘴》

(酒は家に帰って飲んで，ここで邪魔をするのはやめなさい。情報があればすぐに電話しますから。)

まず(14)と(15)の違いであるが，(14)は相手の如才なさを賞賛するために，「もし私が皇帝になつたら」と言っている。このとき“了”は，皇帝ではない状態から皇帝になるという変化の一点の存在を表している。これに対して(15)では，すぐ前のせりふで対話相手は既に自分が「皇帝になってしまった」という冗談を言っており，下線部のせりふは，対話相手が皇帝であるという架空の状態をそのまま受けて言ったものである。すなわち，(14)(15)における“了”的有無は「変化」と「状態」の対立であるということが言える。次に(16)であるが，ネイティブスピーカーの語感によると，このセリフは夜言われたものであり，始めの下線部の「昼になつたら」の「昼」は「翌朝」のことを指しており，これに対して「夜になつたら」の「夜」は特定的ではなく，「いつも夜は」，という意味にとれるということであった。すなわち，(16)における“了”的有無は個別的事態と一般的な事態の対立を表すということになる。最後に(17)と(18)の違いであるが，(17)はこのセリフだけが単独で発話され，(18)は別のセリフの後に付け加えられているというところが異なる。ネイティブスピーカーの語感によると，(17)の文は，この発話における言いたいことの中心となっ

ているが、(18)では、「ここにあなたがいると邪魔だから帰って欲しい」ということが言いたいことの中心であり、問題の後半部分は説得のためについて付け加えられているに過ぎないということである。すなわち、(17)(18)における“了”的有無は、談話における情報の「前景化」と「背景化」の役割を担っているということが言える。以上をまとめたのが表4である。

表4

	事 態 の 姿	概 念 レ ベル	情 報 と し て の 価 値
“了”あり	変 化	個別的事態	前 景 化
“了”なし	状 態	一般的事態	背 景 化

すぐに気が付くことは、表4の対立は全て“了”が主節で用いられる場合の対立と全く同様であるということである。¹²

2. 1. 2 仮定・条件節における“V了0”と“V0了”

表3から分かるように、条件文の前件に用いられる“V了0”的形式が35例存在したのに対し、“V0了”は3例と少なかった。この理由として、“V0了”が因果文の前件によく現れる形式であることが挙げられる。例えば(19a)から関連詞をはずして、文脈なしでネイティブスピーカーに見せると、因果複文として解釈する。このため、仮定・条件節に“V0了”が用いられるのはかなり特別な場合であると考えられる。

- (19) a. 你要 是 看 见 奶 奶 了, 就 喊 爷 爷 一 声, 听 见 了 吗? 《贫嘴》

(お前もしおばあちゃんを見たら、おじいちゃんを一声呼ぶんだよ。)

- b. 你要 是 看 见 了 奶 奶, 就 把 她 带 回 来。

(お前もしおばあちゃんを見たら、すぐに連れて帰っておいで。)

12 ワークショップの会場では、(14)-(18)の例における“了”は全ての例において、あってもなくともどちらでも良いもので、意味的な対立もほとんど感じられない、というネイティブスピーカーの方もいた。

(20) a. 万一轮上我了, 我就让给她们。

《贫嘴》

(万が一私に順番が回ってきたのなら, 私は彼女たちに譲ります。)

b. 万一轮上了我, 我也让给她们。

(万が一私に順番が回ってくるようなことがあったとしても, 私は彼女たちに譲ります。)

(19a)と(20a)は“V0了”的実際の用例である。(19a)はおじいさんと孫が痴呆症による徘徊でいなくなってしまったおばあさんを探している場面での発話である。(20a)は、慰安旅行が順番に回ってくることになっている職場で、発話者の女性が上司に呼ばれ、周囲の同僚から「きっと慰安旅行の番があなたに回ってきたのだ」と言われ、すっかりその気になって、上司に対して(20a)を発話する。

(19a)と(20a)の共通点は、発話時に前件の出来事が現実となる可能性が高いと発話者が感じていることであると考えられる。

(19b)と(20b)は(19a)と(20a)の前件を“V了0”に換えて、それぞれに相応しい後件をネイティブスピーカーに考えてもらったものである。

この発話では、話し手が、聞き手と一緒にいる発話時点では、おばあちゃんに会えるとは考えていないことが読み取れる。同様に(20b)でも、「私に順番が回ってくるなんてありえないが、たとえ万が一あったとしても」という気持ちを表す内容に変わっている。

以上により、仮定・条件節における“V了0”と“V0了”的違いを(21)のようにまとめておきたい。

(21) 仮定・条件節では、「仮定」ではあっても発話時にその出来事が現実となる可能性が高いと発話者が感じている場合に、“V0了”的形式が用いられる。

条件節における“V0了”的この用法は、発話時と命題の表す事態を関係付けるという点において、“V0了”的主節における用法に通じるものなので、ここでも“了”的用法は主節での用法と大きな違いが見られないことになる。

以上により、中国語の仮定・条件節における“了”的用法は、英語の仮定法過去などとは異なり、「仮定」の解釈の構築にとりたてて重要な役割を果たしているものではないということが言える。

2. 2 主節に現れる関連詞“就”的役割

仮定・条件文の主節には(22)のように必ず“就”を用いなければならないものと、(23)のように“就”を用いないものがある。これについて井上2003では、“就”を用いない条件文は、特定の時空間に限定されない「論理」レベルの依存関係を表し、“就”を用いる条件文は特定の時空間における事態間の「時間」レベルの依存関係を表すものであると説明している。これは“就”が「当該事態がスムーズに移行する」という時間に関わる意味の副詞であることから、時制のない中国語は、時間副詞の力を借りて概念レベルを区別する、という考察に基づく主張である。例文(22)(23)は、井上2003からの引用である。

(22) 明天天气不好，我们就不去长城了。

→ 特定の時空間における個別的事態

(明日天気が悪ければ、長城には行かないことにする。)

(23) 有什么困难，我们一定帮你解决。

→ 特定の時空間に限定されない

(何か困ったことがあれば、必ずお力になります)

このような考察は、従来の中国語文法にはなかった新しい観点であり、本稿も基本的には“就”的こうした役割を認めるものである。しかしながら、井上説には次の三つの問題点があるように思われる。

まず一つ目は反例の存在である。次の(24)は特定の時空間における個別的事態を表す例であるが、“就”が用いられていない。

(24) 她要回来你告诉她，让她给我打个电话，嗯，她知道我在哪儿。

《贫嘴》

(彼女が帰ってきたら、俺に電話するよう伝えてくれ。)

逆に、(25)は特定の時空間に限定されない論理レベルの依存関係を表す例であるのにもかかわらず，“就”が用いられている。

(25) 余：不是“不大对头”，是很不对头。哎，你忘了牛大姐对咱们那亨亨教导，思想对了头，工作就有劲头，工作有劲头，才能一步一步
层楼，对吧，牛大姐？

《编辑部》

(余：ちょっとどころではないよ。大変間違っているよ。牛さんの
くどくどとした、りっぱな教えを忘れたのかい。思想が正しければ
仕事にも力が湧く。仕事に力が湧いて初めて一歩向上できるってね。
そうでしょう、牛さん。)

二つ目の問題点として次のことが挙げられる。郭春貴1995は，“就”を用いない仮定・条件文として、主節が疑問文や命令文であったり、主節に蓋然性を表す副詞、または願望の助動詞が用いられる場合は“就”を用いない、ということを明らかにしている。井上2003に挙げられている“就”を用いない例文のほとんどはこれに該当するが、このことと「文の概念レベル」は無関係であるように思われる。

三つ目の問題点は、“就”的有無により複文の接続関係の解釈が変わることがあるが、そのような“就”的役割を井上説ではどのように捉えられるのか、という点である。(26a)は因果関係の複文として解釈されるが、これに“就”を加えた(26b)は仮定関係の解釈となる。(27)も同様であり、さらに井上2003から引用した(22)も同じく、“就”を省くと因果関係の解釈が生じる。¹³

(26) a. 有十万块钱，你够过日子了。

(十万元あるので、君は十分生活できる。)

b. 有十万块钱，你就够过日子了。

(十万元あれば、君は十分生活できる。)

(27) a. 他不在家，我们不要随便乱动他的东西。

(彼が不在なので彼のものを勝手に動かしてはいけない)

13 注5も参照してほしい。

b. 他不在家，我们就不要随便乱动他的东西。

(彼が不在なら…)

第二，第三の問題点からは，“就”的共通する特徴が導かれる。第二の問題点の指摘する，主節が命令文や疑問文であったり，蓋然性の副詞，願望の助動詞が用いられているという状況は，事態が未実現であったり，実現性が確定していないという点で，主節が非現実の事態を表している状況であるといえる。¹⁴ このことと，三つ目の問題点から，本稿では，“就”は従属節の現実性が不明確である場合に，主節に置いて命題内容が非現実の事態であることを明示する働きをしているものであると主張する。

ところが，そう考えると一つ重大な問題が生じる。それは，例文(28)(29)に見られるように，“就”には現実の出来事の時間関係を表す用法もある，ということである。

(28) 欧阳海看了看在旁边的火车，又看了看火车上下来的人，就闭上了眼晴。

(欧阳海は傍らの汽車を見て，そして汽車に乗降する人々を見て，目を閉じた。)

(29) 走了没有二十里地，天气就变了。

(二十里も行かないうちに，天気が変わった。)

これについて，まず(28)(29)では前件の現実性が明確であるので，(28)や(29)のように明らかに現実の事態を表す文と，仮定・条件文のように非現実の事態を表す文では“就”的意味が異なる，ということを主張したい。(28)や(29)では，前半部分が現実の事態を表すことが明白である。この場合，“就”は「すぐに」という時間的な意味に解釈される。“就”にはもともと動詞として「達成する」，助動詞として「十分できる」という意味があり，¹⁵ このような量性を含む意味から，“就”は「非現実」の事態を表す仮定・条件文に用いられ

14 この点に関して詳しくは和佐2004を参照。「条件文は，前件も後件も常に irrealis の事態でなければならない」(和佐2004：3)。

15 戸川（監修）2000，参照。

る場合、「 p からは十分に q が導かれる」という論理関係の解釈を支える役割を果たしているものと考えてみたい。

これを裏付ける二つの現象がある。一つは、“一……就……”という呼応形式の多義性である。“一……就……”は、一般には(30)のように「～するとすぐ」という時間的な意味を持つものであるとされ、辞書にもそのように記述されている。しかしながら(31)に見られるように、非現実の事態を表す文に用いられると、条件関係の解釈が全面に出てくる。

(30) 他一下課就回家了。

(彼は授業が終わるとすぐ家に帰った。) 時間関係

(31) 母亲一知道就糟糕了。

(お袋が知ったら大変だ。) 条件関係

もう一点は、“就”とちょうど逆の論理関係を表す副詞の“才”にも「わずかな」という量的な意味と、「やっと、ようやく」という時間的な意味があり、“就”と平行性を見せるという点である。“就”的場合と同様に、“只有 p 才 q ”においては、「 p からはわずかに q が導かれるのみである」のように“才”的量的な意味が、論理関係の解釈を支えているものと考えられる。

以上により、仮定・条件文の主節における“就”は、従属節の現実性が不明確である場合に、十分条件の論理関係の解釈を支える役割を果たしており、その論理関係が決まることによって命題内容が非現実の事態であることも決定されているものと考えられる。

要するに、「非現実」の事態を表す文に用いられるか、「現実」の事態を表す文に用いられるかによって“就”的解釈が変わるということであって、“就”的存在が文の概念レベルを変えるのではない、ということである。

3. 日本語との違い（まとめに代えて）

最後に日本語の条件表現と関わる部分について中国語条件表現の特徴をもう一度まとめ、それが何を意味しているかを可能な範囲で確認しておきたい。

- ① 中国語の複文の接続関係の解釈は、文脈情報を考慮に入れなくては全く不可能なことがある。
- ② 中国語の複文では、それぞれ「条件複文」と「仮定複文」と呼ばれる複文が形式的にも意味的にも区別される。

中国語では、動作動詞が完了体でマークされた文では時間量や結果量、形容詞文では程度量が定まっていないと文が独立しないことがある。¹⁶ 2. 2 で述べたように、「条件複文」の接続関係を表す“就”と“才”は共に量的な意味を持ち、それがそれぞれの複文の論理関係を構成する役割を担っているようである。まだ明確に結論付けることはできないが、中国語の「条件複文」は量の概念と何らかの関わりがあり、それが「仮定複文」と形式を分けなければならない理由につながるのかもしれない。この点については今後の課題としたい。

- ③ 推断因果関係を表す専用形式が存在する。

李晋霞・刘云2004によると、中国語では Sweetser 1990 における「内容」領域の因果文と「認識」領域の因果文に、異なる関連詞が用いられていると考えて良いという。李・刘2004の説明では、説明因果文が「内容」領域、推断因果文が「認識」領域の因果文にほぼ相当するものである。

- ④ 接続関係を表す接続形式は従属節のものよりも、主節のものの働きがより重要である。

しばしば省略される従属節の関連詞よりも、“就” や “才” のような主節に用いられる副詞や助動詞の方が接続関係の解釈により貢献していることがある。Comrie B. 1986 によるとこのような言語は非常に少ない。これについてはまだ何を意味していることなのかよく分からぬ。

16 中国語文法と「定量性」の関わりについては、石毓智2001を参照。

<参考文献>

- 相原 茂1982「中国語の複文」『講座日本語学11 外国語との対照Ⅱ』明治書院：240-258。
- 赤塚紀子・坪本篤朗1998『モダリティと発話行為』研究社出版。
- Comrie B. 1986 "Conditionals: a typology." Traugott E. C. et al (eds) *On Conditionals*. Cambridge University Press.
- 郭春貴1995「仮定複文における関連副詞“就”について」『広島修大論集』第36号第2号：59-86。
- 井上 優2003「文接続の比較対照——日本語と中国語——」『時間表現・空間表現の意味の構造化に関する日本語と中国語の対照研究』平成13-14年度科学研究費補助金研究成果報告書：113-118。
- 孔令达1994 <影响汉语句子自足的语言形式> 《中国语文》第6期：434-440。
- 李晋霞・刘云2004 <"由于" 与 "既然" 的主观性差异> 《中国语文》第2期：123-127。
- 刘月华 等2001 《实用现代汉语语法（增订本）》商务印书馆。
- 益岡隆志1997「日本語の条件表現について」『日本語の条件表現』くろしお出版。
- 1997「条件表現と文の概念レベル」『日本語の条件表現』くろしお出版。
- 大河内 康憲1967「複文における分句の連接関係」『中国語学』176号。(参照したのは大河内康憲 著『中国語の諸相』白帝社：86-106)
- 沈家煊2003 <复句三域“行，知，言”> 《中国语文》第3期：195-204。
- 石毓智2001 《肯定和否定的对称与对称（增订本）》北京语言文化大学出版社。
- Sweetser E. 1990 *From Etymology to Pragmatics*. Cambridge University Press.
- 戸川芳郎（監修）2000『全訳漢辞海』（三省堂）。
- 和佐敦子2004「日本語とスペイン語の条件表現——irrealisと叙法・時制の観点から——」「言語対照ワークショップ2004——条件表現をめぐって——」口頭発表資料。
- 邢福义2001 《汉语复句研究》商务印书馆。

<用例出典>

- 《贫嘴》：北京电视艺术中心、北京电视台等摄制，电视连续剧《贫嘴张大民的幸福生活》。
- 《编辑部》：北京電視藝術中心制作，連続ドラマ《编辑部的故事》中国語情報サービス発行。
- 《玩主》：王朔 <玩主> 1998 《王朔自选集》华艺出版社。
- 《原野》：曹禺 <原野> 1998 《曹禺文集》第一卷，中国戏剧出版社。